



イチゴのプランター栽培に挑戦 ～実際に栽培してみました～

イチゴは一般にハウスで栽培され、晩秋から春先に販売されていますが、旬の時期は春なのをご存じですか。家庭で気軽にできる露地のプランター栽培に挑戦してみました。

1. 用意するものと植え付け

10月中旬頃に、プランター(ここでは幅45cm、奥行20.8cm、高さ17cm、土容量7ℓのもの)、苗(2ポット)、肥料入りの培養土を用意します(写真1)。苗は促成栽培用品種(「とちおとめ」、「紅ほっぺ」など)、露地栽培用品種(「東京おひさまベリー」、「宝交早生」)がホームセンターなどで販売されています。お勧めは旬の品種である露地栽培用品種です。今回は「東京おひさまベリー」を用いました。

プランターに培養土を入れ、株間を20cmほどあけてイチゴ苗を植え付けます(写真2)。苗の基部にあるクラウンを土に埋めないよう注意してください。プランターは日当たりがよく、風通しのよい場所に置きましょう。あとは乾かさないように適時かん水してください。



写真1 用意するもの

2. 摘葉と追肥

変色した葉や枯れた葉は適時とり除きます(摘葉)。冬期は寒さのため地面にほふく状になりますが、3月中旬、気温が高くなってくると葉は立ち上がってきます。2月下旬頃、粒状の化成肥料をひとつまみ追肥してください。3月以降、アブラムシ類やハダニ類の発生がみられるので注意してください。



写真2 植え付け後

3. 収穫

3月中旬以降、花が咲き始めてきます。開花から収穫までの日数は品種によって異なりますが、「東京おひさまベリー」では43日程度です。5月上旬ごろより収穫ができるようになります(写真3)。イチゴはミツバチなどの訪花昆虫や風による振動によって受粉され、種子(果実表面のつぶつぶ)ができないと果実は大きくなりません。果実がつくようになると、「灰色かび病」(写真4)がみられる場合があります。病気の果実は早めに取り除いてください。



写真3 収穫間近のイチゴ



写真4 灰色かび病(左の果実)

4. 収穫後の苗とり

収穫中より株元からランナーがでてきます。ランナーとはほふく枝のことで、葉や根がでて子株を作ります。苗とりは直接庭等の土にランナーを受け取ることも可能ですが、ここでは用土の入ったポリポットに受けました(写真5。親株側のランナーを留め金でとめる)。ランナーは子株の根が張ってから、切りとってください。なお、翌年、留め金の反対側より花房が出てくるので、その位置にラベルを挿しておくことで植え付け時に便利です。

※「東京おひさまベリー」は登録品種です。増殖した苗を自分で栽培する場合は問題ありませんが、他人への譲渡(有償・無償ともに)は禁止されています。



写真5 ポリポットでの苗とり